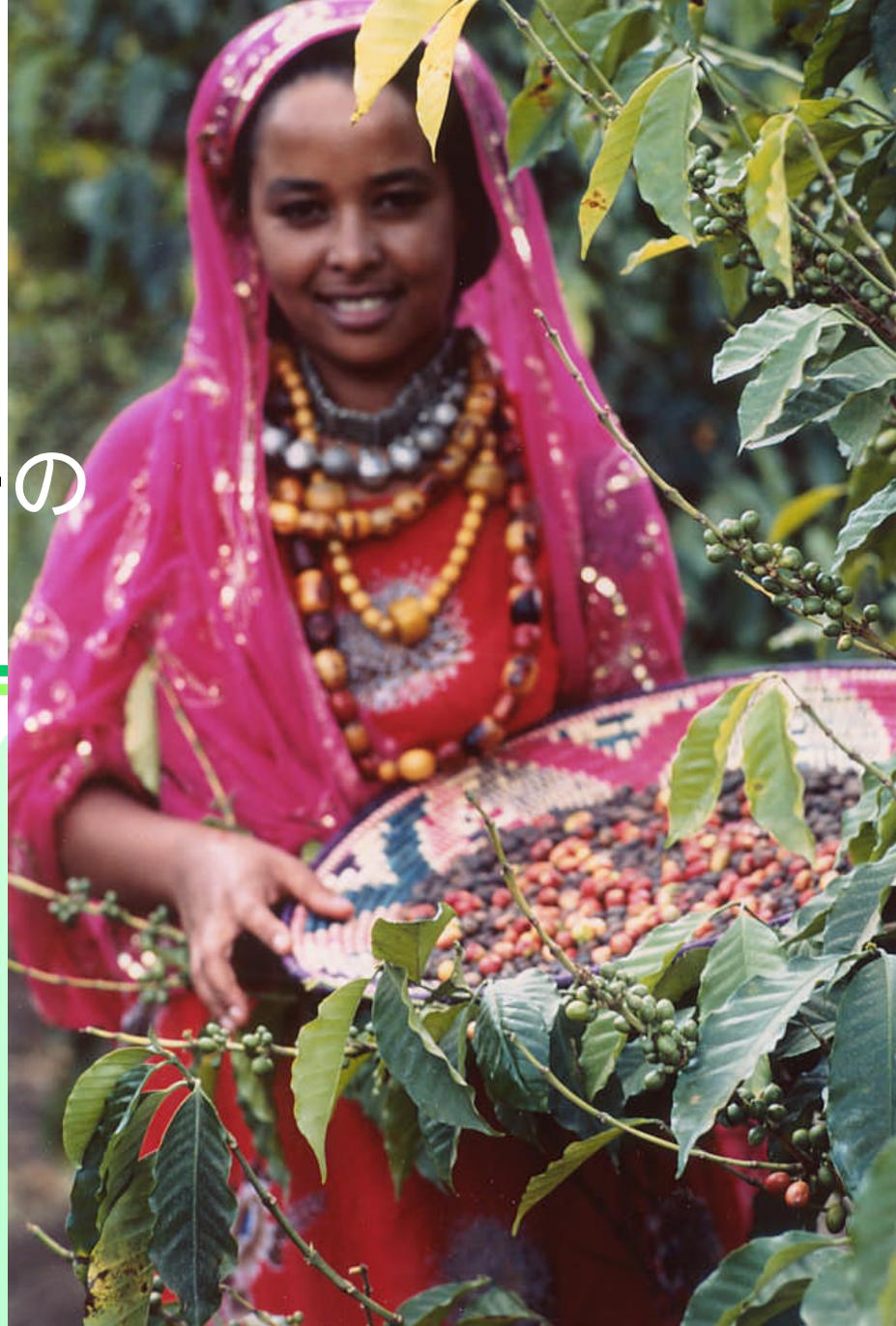


エチオピアコーヒーの 源郷を訪ねて

金沢大学講師 桂 憲正





Sudan

Eritrea

Yemen

Ethiopia

Somalia

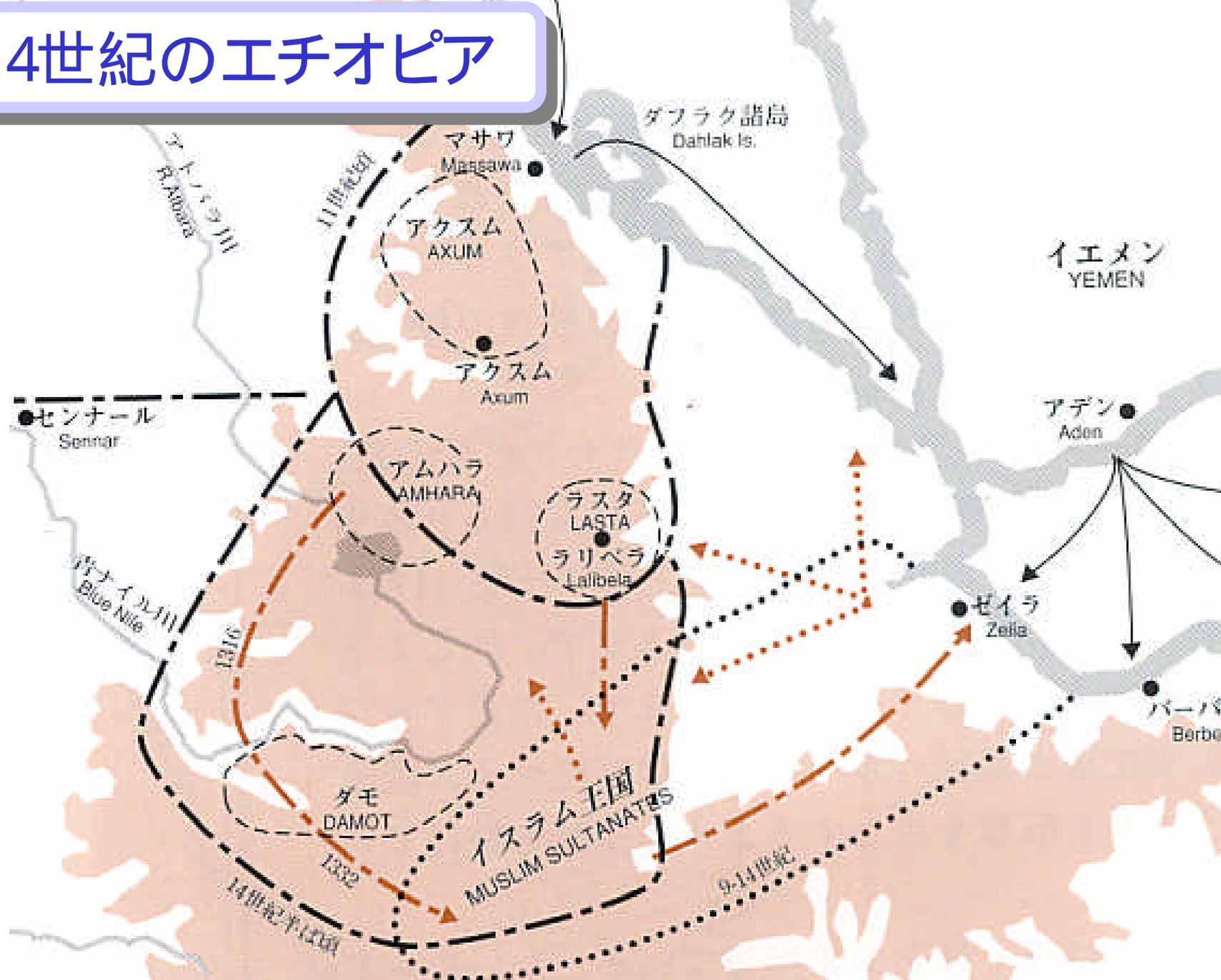
can Republic

Uganda

Kenya

D.R.
Congo

14世紀のエチオピア





1. エチオピアの国家事情

- × 面積：109.7万Km² (日本の3倍)
- × 人口：6,430万人
- × 首都：アディスアベバ
- × 宗教：キリスト教、イスラム教、他
- × 主要産業：農業
- × 国民総所得：6325百万(2003年) 一人あたり90ドル
- × 経済成長率：-4%
- × 物価上昇率：14% (2003年)
- × 総貿易額：輸出 = 4億3300万ドル 輸入 = 16億2600万ドル





2. 経済概況

- × 四大文明発祥の地ナイル川の源にあたる。
- × 紀元前から香料貿易で栄えた古代国家であるが、今は一人あたりのGNIが\$90と世界最貧国の一つ。
- × 主要経済は農業。コーヒーは、GDPの60%を占める。人口約6430万人中、約1000万人がコーヒー関連に従事。コーヒーに依存した経済環境にあり、NYの相場がこの国の経済の浮き沈みを決める。





3. コーヒー栽培の現状

- × 対外債務が輸出収入金額の9倍
- × 人口の増加、農業依存経済、内戦、国境紛争等、国の将来は必ずしも明るいとはいえない。
- × コーヒー部門においては、民間資本の参入、税制の簡素化など自由化は進んでいるが、不十分な面が多く解決すべき問題が山積している。





4. 栽培方法

1) フォレスト・コーヒー

南部・南西部 (イルバボール、ウォレガ、ジマ、カファ等) の地域、森林の中に野生化しているコーヒーを採取。産出量比率10%。

2) セミ・フォレスト・コーヒー

1)の地区に混在。シェイドツリーの枝払い、下草刈りなどの管理のみ行う。産出量比率35%。

3) ガーデン・コーヒー

東部のハラール地区、南部のシダモ、オモ、ウェロガ、グラゲ地区。1ha当たり1000～1800本の低密度で栽培。平均規模0.5ha、他の作物との混合栽培。産出量比率50%。

4) プランテーション・コーヒー

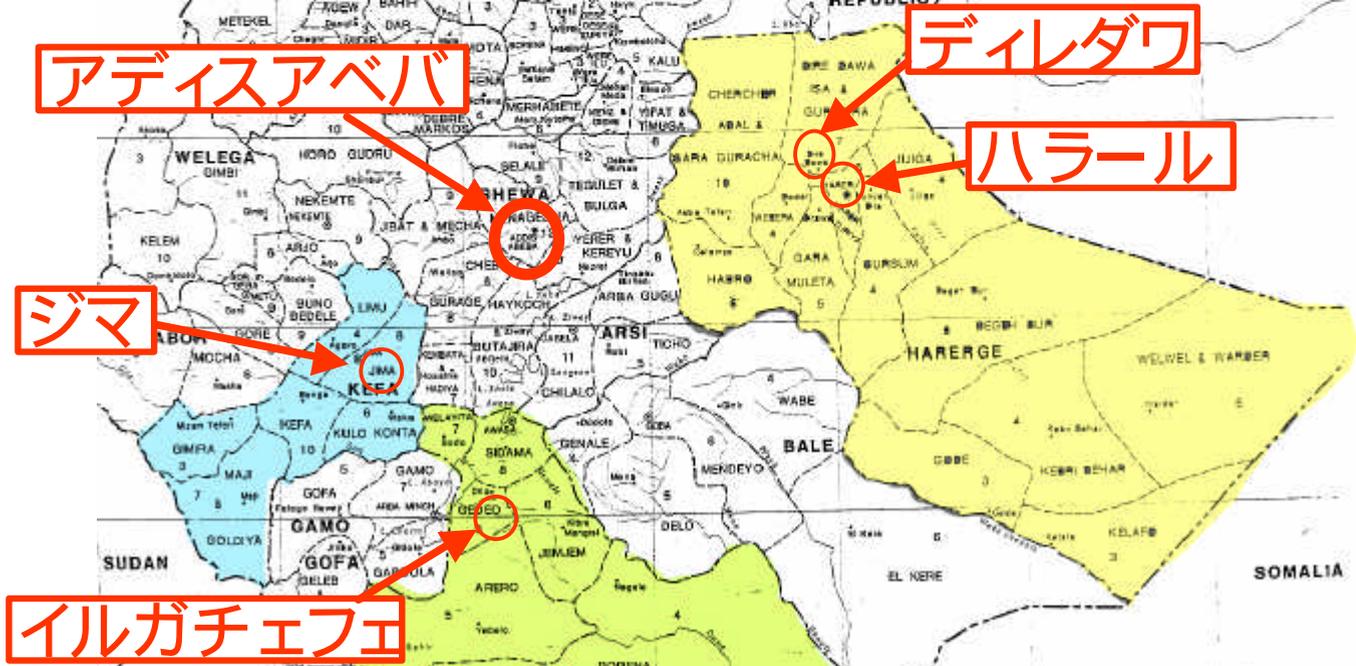
南西部、南部の国営大規模農園や管理の行き届いた民間の小規模農園。水洗設備を備え行き届いた管理のもと品種改良、農園管理等を行っている。産出量比率5%。

生産の中心は70万余の小規模農園で、全体の95%を占める。
主要生産地はカファ地方、シダモ地方、ハラール地方。



主要生産地

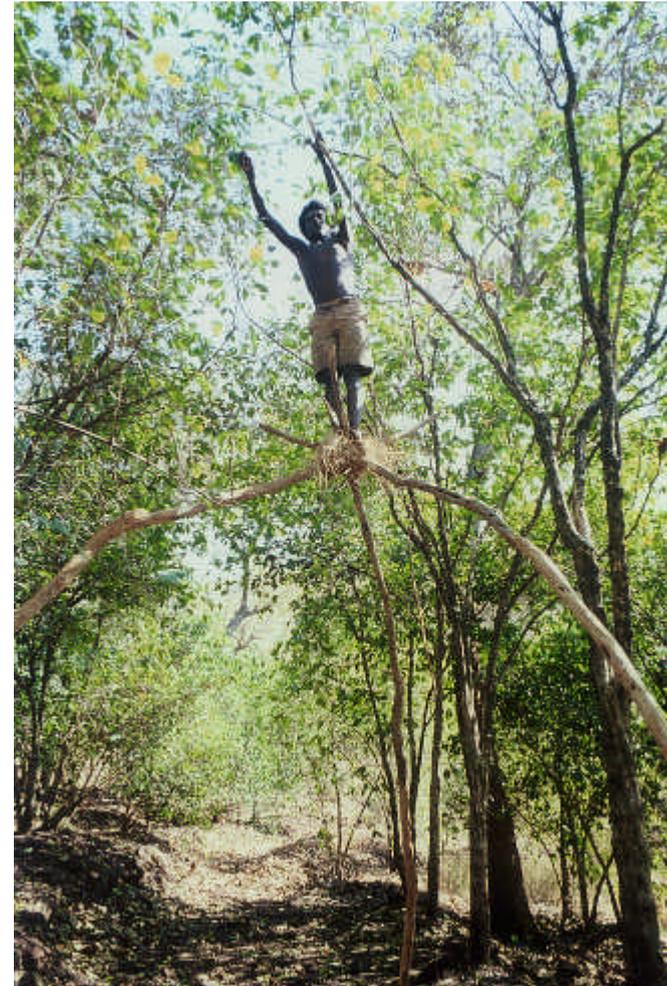
- Capital City
- Administrative Region Capital
- Awraja Town
- - - - - Awraja Boundary
- — — — — Administrative Region Boundary
- — — — — International Boundary
- NS: Numbers in each Area indicate number of Woredas



SCALE 1:5,000,000

5. ハラール地区のコーヒー

- × ハラール地区はイエメン同様、岩山と半分砂漠のような土地が続き、増産余地はかなり少ないように思われる。
- × しかし、コーヒー発祥の地としての価値、コーヒーの母樹(マザーツリー)を将来にわたって保存し、母樹から種を取り、苗を増産、ハラール各地に配って他生産国と違う原種のコーヒーをセールスポイントにする計画を始めようとしている。
- × ハラールコーヒーの分類
 - ！ **ボールドグレイン**: 2000m~2750mの高地で採れる。生産量2000トン。
 - ！ **ロングベリー**: 2000m以下で採れる。生産量6000トン。





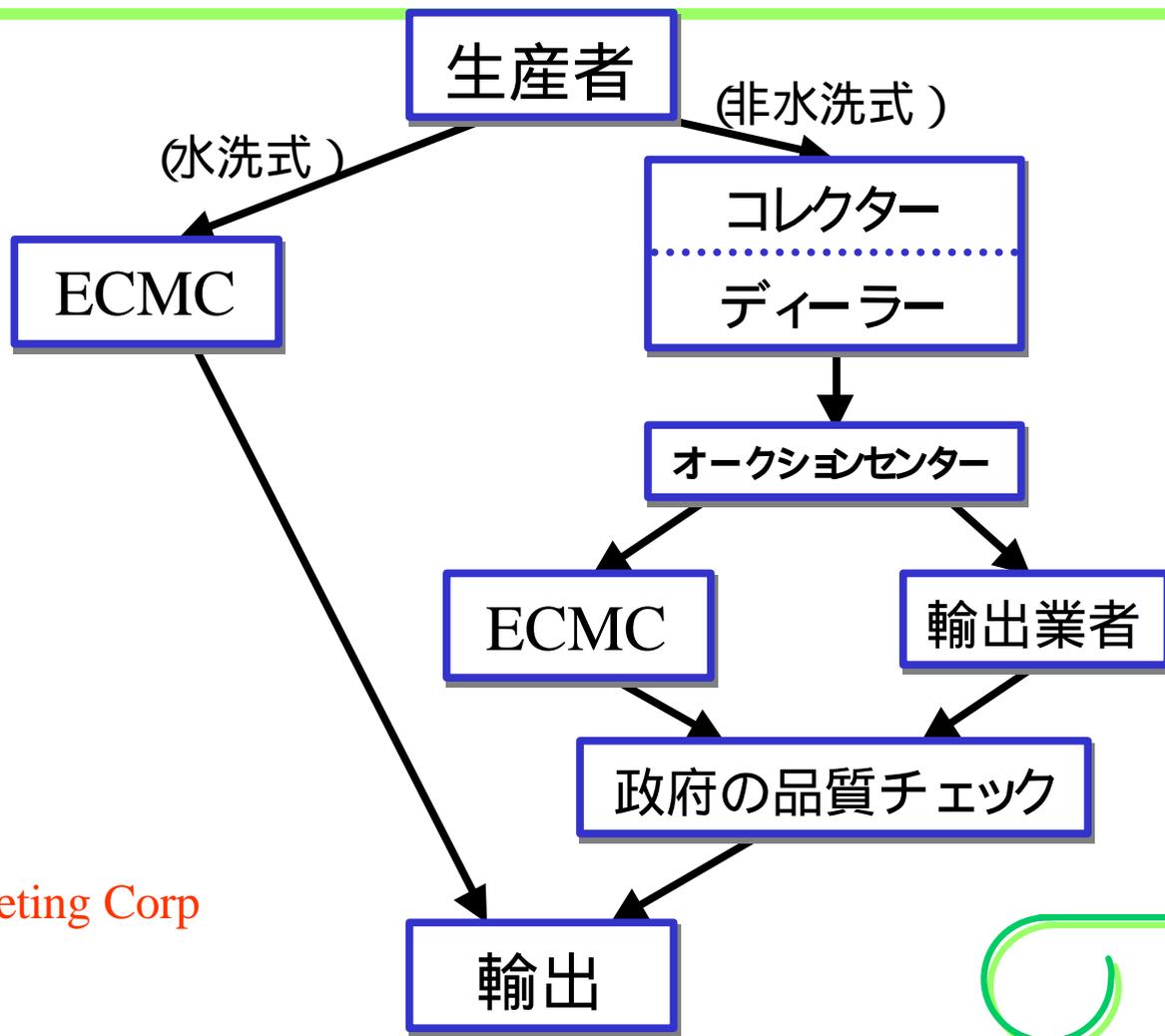
6. ハラルル高原ジェルジェルツォー村

- × ディレダワから車で5時間
- × ガラ・ムタラ山南斜面一帯に位置し標高2300m。
- × 世界最古の栽培地。樹高6～8m、幹の直径20cm、樹齢150年以上の樹が1本ずつ規則的に植えられている。
- × 収穫方法は、ラダーと呼ばれる脚立のようなものの上に上がり、完熟の黒い実だけを摘み取る。
1戸あたりの栽培樹数50～150本。



7. 流通経路

水洗コーヒーは、輸出量の10%を占め(今後10年間で20%に高める計画)、政府が100%出資するECMCによりすべて管理されている。非水洗式コーヒーは、生産されたそれぞれの地域で集荷され、脱穀作業の後、アジスアベバ(ハラールはディレダワ)にあるオークションセンターまで運ばれる。ECMCと13のプライベートシッパは、定期的に行われるオークションでコーヒー豆を買い付け、自社で選別加工、格付けを行う。そして、政府が品質、等級をチェックした後、輸出の許可が出る。



ECMC: Ethiopian Coffee Marketing Corp



8. 問題点と将来の展望

問題点

- × 現在最大の問題は旱魃による影響で、ハラール、シダモ地方が水不足だと報告されている。またその他に、トラック、燃料等の不足による交通手段の問題点も抱えている。

展望

- × しかし、ハラール地方のコーヒー豆の品質は世界的に見ても高品質であり、原種に近い味と香りを伝える。昨今、スペシャルティコーヒーがブレイクしており、十分にそれにこたえることができる。
- × さらに、世界最古の栽培地で150年を超える古木のコーヒー豆であることをセールスポイントに置けば、今後の展望は明るいものと思われる。

付) 03 / 04 年度 生産量：約433万3千俵 (60Kg)

輸出量：約237万3千俵

日本のエチオピアからの輸入量：53万4千俵 (日本総計 628万2千俵)

